

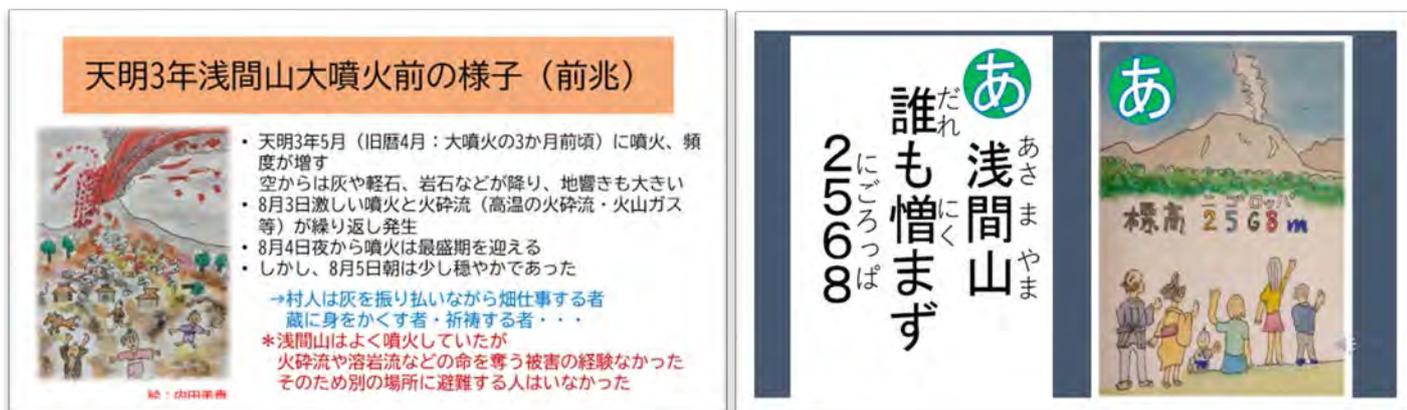
2025年5月1日

報道関係者 各位

令和6年度群馬大学地域貢献事業

群大生が受け継ぐ天明3年の浅間山大噴火と復興支援

群馬大学大学院保健学研究科看護学講座の内田陽子教授らは、学部生や院生と共に昨年夏から、同学の「地域貢献事業」の一つとして、吾妻郡嬭恋村と連携して、天明3（1783）年の浅間山噴火の大被害と地域の復興支援の教訓を語り継ぐ「次世代の語り部」の活動に取り組んでいます。その活動のツールである動画とかるたが今春完成しましたので、ご報告いたします。



1. 本件のポイント

- 1783年（天明3年）の浅間山大噴火は、まだまだ身分制度の支配が厳しい時代の中で、その身分を超えて新しい家族形成、土地平等区分等を行った類を見ない復興であり、現在まで現地の高齢者の方々が鎌原観音堂で語り部を担っている。しかし、現在では語り部も少なくなり、受け継ぐ若者がいない状況にある。
- 現代人も学ぶところが多い復興のプロセス等を次世代に継承するべく、群大生がその内容を動画として制作した。
- 制作された動画は、学部生と大学院生が現地に足を運び、文献調査や現地取材を重ねたことで、復興支援についての特徴や災害看護の視点などを踏まえた内容となっている。様々な切り口からまとめた各種動画は、スマホからも簡単に閲覧できる。
- また、災害と復興支援について親しみやすいよう、群馬県民にも身近なかるたで表現した「鎌原かるた」の開発も行った。

2. 本件の概要

背景

群馬県は災害が少ないと思いませんか？実は、群馬県は活火山に囲まれ、河川も流れています。天明 3 年の浅間山大噴火は嬭恋村だけでなく、吾妻川にも泥流が流れ、未曾有の死者や被害を発生させました。その災害の様子や 93 名の生存者による復興のプロセスには土地の均等分配、新しい家族づくりなど当時の身分制度の垣根を超えた取り組みがなされ、古文書や語りなどで現在まで伝承されてきました。しかし、語り継ぐ方の多くは高齢者であり、活動人数は減少を続けています。そこで、若者である有志の群大生が立ち上がりました。

成果

鎌原地区に足を運び、現地住民の方々への取材を通じて各種動画を作成しました。動画はダイジェスト版のほか、項目ごとに 5 つに分かれており、鎌原かるた解説付き動画も作成しています。この動画の一部は 2024 年 3 月 16 日の浅間山ジオパーク・ワークショップで嬭恋村役場の熊川 栄村長をはじめ、住民の方々に披露され、群馬大学関係のホームページにも掲載しています（動画公開ページは後述）。

展望

現在、作成した動画の案内チラシを群馬県各機関に配布しており、動画を多くの人に視聴してもらうことによって群馬県内の防災意識を高めることが期待されます。また、同じように大災害と隣り合っている地域は全国にも多く見られるため、防災や避難、被災後のケアや復興への基礎資料への情報提供も検討しています。

本取り組みは、群馬大学令和 6 年度地域貢献事業の助成を受けて行われました。

3. 関連リンク

- 群馬大学地域貢献事業

https://www.gunma-u.ac.jp/research/res003/res003_001

- 浅間山北麓ジオパーク

<https://mtasama.com/>

- 嬭恋郷土資料館

<https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/www/genre/1000100000006/index.html>



- 内田陽子研究室ホームページ

<https://bpsd.jp/>



- 動画公開ページ

<https://bpsd.jp/r6tiikikouken.html>



【本件に関するお問合せ先】

群馬大学大学院保健学研究科 看護学講座 教授 内田陽子（うちだ ようこ）

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課広報・保健学庶務係

TEL : 027-220-7895、FAX : 027-220-7720

E-MAIL : m-koho@ml.gunma-u.ac.jp